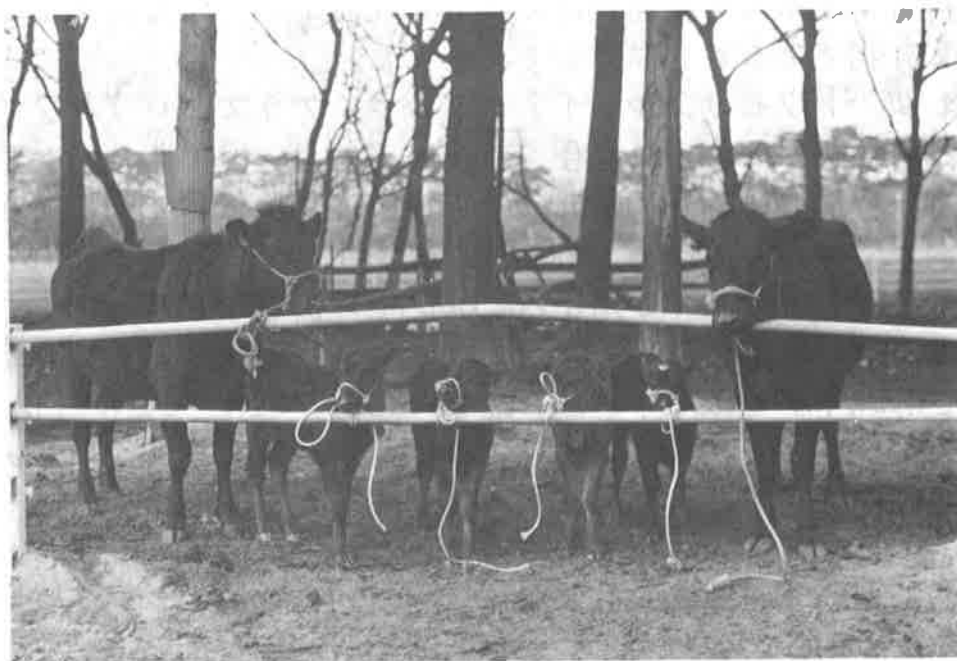


酪農試験場だより

No. 43



受精卵移植技術によるF₁牛での生産双子

内容紹介

- 1 自給飼料の生産拡大のメリット
- 2 酪農とパソコン
- 3 分娩前後および哺乳中の事故防止について

自給飼料の生産拡大のメリット



一雨ごとに暖かくなり、トウモロコシ種子の準備の頃となりました。県の奨励品種は次の6品種です。早目に手配をしましょう。

極早生：P 3732, NS 105

早生：P 3352, NS 68, XL 61

中晩生：P 3160

ところで、「自給飼料の生産拡大をしよう!! 飼料自給率の向上を図ろう!!」などと叫ばれ続けて久しくなります。ここでは、自給飼料の生産拡大が流通飼料の購入に比較して、経費の面ではどの程度有利であるかを試算してみました。

例えば、トウモロコシ～イタリアンライグラスという年2作体系で飼料作物を生産する場合、下表のとおり、10a当たり生草収量10,000kg、TDN収量1,560kgが見込まれ、生産経費は84,000円となります。このTDN収量1,560kgは、流通チモシー乾草3,120kgに相当し、その量を購入する場合202,800円の出費となります。したがって、10aの飼料作物の作付面積の拡大により、通常の乾草購入量を削減すると仮定すると、経費の差額 $202,800円 - 84,000円 = 12万円$ となります。1haの拡大では120万円となり、大巾な飼料費の節減が期待できます。

以上のことから、今年は、転換田、水田裏などへの飼料作物と積極的に導入し、現有農機具、施設を有効に活用して、良質粗飼料の生産を向上させ所得アップに努めていただきたいと思います。

表 サイレージの生産費 (10a当たり)

飼料名	生産経費 資材費、農機具費、 施設費、労働費など	生 草		T D N		
		収 量	生産費	収 量	生産費	指 数
自 トウモロコシ	47,000円	6,000kg	7.8円/kg	1,080kg	44円/kg	59
イタリアン	37,000	4,000	9.3	480	77	104
給 小 計	84,000	10,000	8.4	1,560	54	73
流 チモシー乾草	流通価格 65円/kg	TDN 50%		130円		176
ヘイキューブ	流通価格 45円/kg	TDN 50%		90		122
通 配合飼料	流通価格 53.5円/kg	TDN 72%		74		100

TDN (原物中) : トウモロコシ 18%、イタリアン 12% で試算

酪農とパソコン



最近よく聞く「パソコン」、あなたは、どんな代物かご存知ですか？テレビに似ているし、子供が毎日遊んでいるゲーム機に似て、なんて思っている人は、いまだきかないかもしれません。でも、本当はどんなことに使えるのかな？と思っている人は

多いと思います。

そこで、みなさんの仲間の中で、すでに上手にパソコンを利活用している方がいますので、ご紹介します。

Aさんは、ある表計算ソフトの機能を利用して牛群管理プログラムを作成しました。このソフトは、牛の個体台帳、泌乳量、繁殖状況等を入力することにより、「本日の作業表（発情予定牛、乾乳予定牛等）」、「月別出荷乳量」、「個体別乳量（産次比較）」などが出力できます。また、経営管理として市販の簿記プログラムを利用し、決算の時期にみんなが必死に電卓をばたいているのを横目に、ボタン一つで決算書を作成していました。申告時苦労している皆さんなら、この労力の低減だけでもパソコンの効用がおわかりだと思えます。

また、利用している人たちは、パソコンの長所として、

- 1) 短時間で多くの処理が正確にできる。
- 2) 個体管理が細かくできるようになった。
- 3) 牛群検定データの有効利用ができるようになった。
- 4) 自分の経営をよく見つけ直すようになった。

等をあげ、経営改善に十分役立っていると話していました。

しかし、ここまでパソコンの利点ばかり強調しましたが、問題も残されています。第一に、最初のデータ入力に時間がかかること、第二に個別の経営にあったソフトがないことです。Aさんのように自分でソフトを作成すれば問題はありますが、慣れない人には大変難しいものです。

そこで、当場では酪農家の皆さんのニーズにあったソフトを開発したいと考えています。

分娩前後および哺乳中の事故防止について



ETの連載を続けてきましたが、最終回となりました。今回は、分娩前後および哺乳中の事故防止について書きたいと思います。やっとETで妊娠した牛だからと、大切に飼うあまり、餌だけたくさん与えて運動もさせないのでは、太り過ぎてしまい、

難産になりETによる子牛を死なせてしまうということも起こります。太り過ぎると難産になるばかりでなく、分娩後に起立不能やケトージスなどにもなり易くなりますから、乾乳中には適度な運動をさせるなど適切な飼養管理を行うようにして下さい。

2卵移植の時には、双子になるのを前提にして子牛が1頭しか入っていない時に比べて少し増し飼います。また、双子の場合には分娩予定日より1~2週間早く生まれることもありますから、分娩予定日の1ヵ月前から注意しておく必要があります。また、分娩時には、1頭が生まれたからといって安心しないで、もう1頭入ってるだろうと思って、手を入れて確認することです。

生まれた子牛は良く拭いてやりましょう。特に鼻の中や口の中に入った羊水は全部出るように拭いてやります。さい帯は短かく切って希ヨードケンキをつけて細菌感染を防ぎます。そして、生まれたらできるだけ早い時期に初乳を飲ませます。生れてから時間が経てば経つほど初乳中の免疫グロブリンの腸管からの吸収が悪くなるからです。生後1時間以内に、ホルスタインなら2kgぐらい、和牛なら1kgぐらいの初乳を飲ませてやりましょう。生後5日目ぐらいまでは初乳を飲ませるようにして病気に対する抵抗力がつくようにします。

哺乳中に特に注意をしなければならないのは下痢と肺炎です。

下痢を防ぐためには、1日の哺乳回数を2~3回として一定時刻に一定温度、一定濃度(代用乳)で給与します。肺炎の予防のため、密飼いはやめ、敷料を十分入れるようにします。カーフハッチを使うのも良いでしょう。

酪農試験場だより No.43

平成3年3月8日

栃木県酪農試験場

〒329-27 西那須野町十本松298
TEL 0287-36-0280